

環境の現地調査の概要（大気質、強風による風害）

1. 調査内容

工事の実施、自動車の走行及び換気所の供用に伴う環境影響を予測するために、現況における大気質等の濃度や気象条件を把握する必要があります。このため、以下に示す調査を実施したいと考えています。

大気質の状況：大気中の二酸化窒素と浮遊粒子状物質の濃度を調査したいと考えています。

粉じん等の状況：大気中から雨水とともにあるいは単独で降りてきた“ちり”や“ほこり”の量を調査したいと考えています。

気象の状況：風の向き（風向）と風の強さ（風速）を調査したいと考えています。

配慮すべき施設等の状況：学校、病院、公園等の不特定多数の人が利用する施設の種類、位置、利用状況などを調査したいと考えています。

2. 観測時期

調査は、四季毎の変化をとらえるため、以下に示す季節毎に実施したいと考えています。

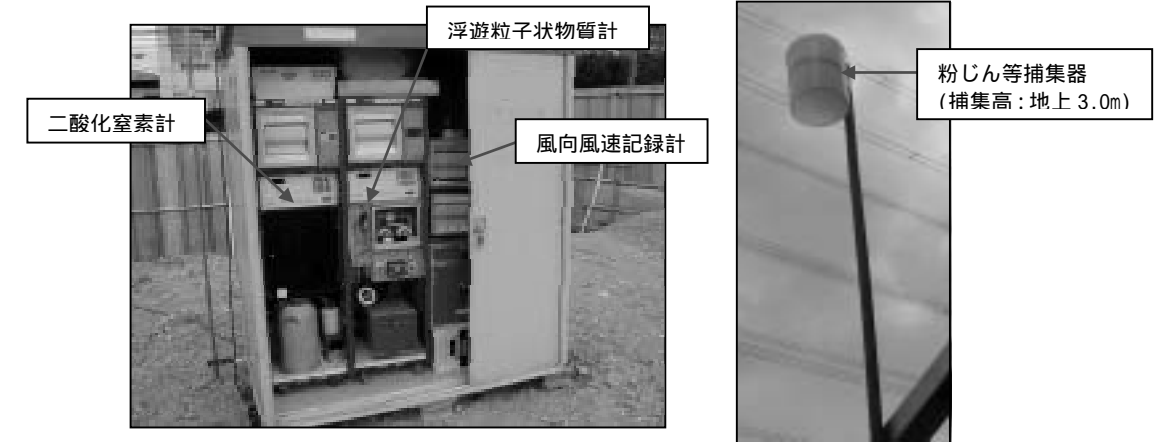
	春季	夏季	秋季	冬季
大気質				
粉じん等				
気象				

大気質と気象の調査は季節毎に1週間の連続測定、粉じん等は季節毎に1ヶ月間の連続測定を実施したいと考えています。

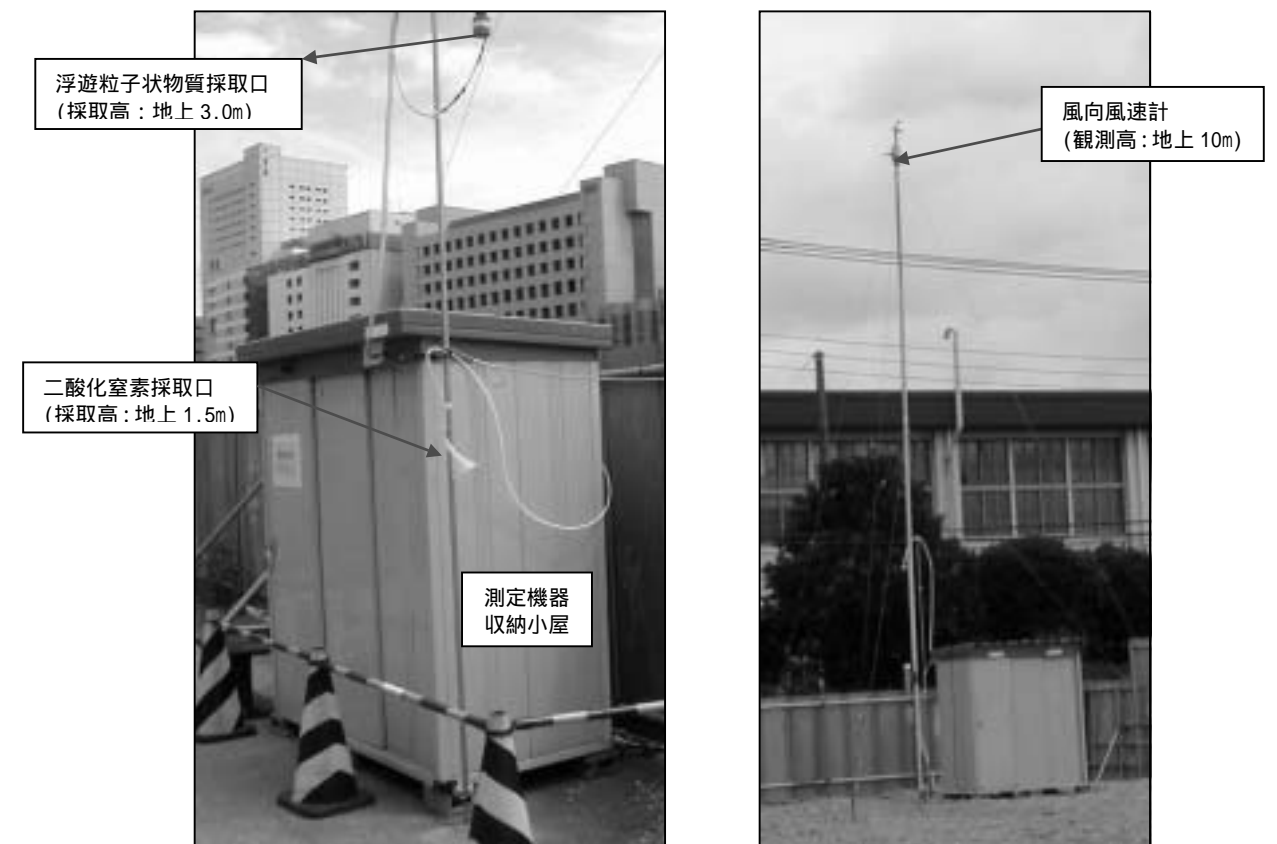
3. 観測方法

大気質の状況、気象の状況の調査は自動観測、粉じん等の調査は調査員による定期観測とし、測定機器は四季の調査毎に設置・撤去を行いたいと考えています。また、配慮すべき施設等の状況については、現地踏査を実施し確認したいと考えています。

以下に、大気質、粉じん等、気象の調査機器の設置例を示します。



調査機器の設置例(1)



調査機器の設置例(2)

4. 候補地点の考え方

大気質・粉じん等及び気象の調査は、車が地表面を走るジャンクション及びインターチェンジの可能性がある周辺で実施したいと考えています。

（別紙、環境現地調査の候補地点（案）参照）